

令和元年度 調布市立染地小学校 学校評価報告書

様式1

領域	自己評価結果の概要	学校関係者評価結果の概要	次年度への改善策	次年度優先順位
学力向上	<p>・全国学力学習状況調査において、国の平均より、国語はマイナス2ポイント、算数はプラス5ポイントの結果であった。 学習について保護者からは、86%の肯定的評価を得ている。 教員の自己評価では、基礎的・基本的な学習についておおむね満足できる成果をあげているが、主体的・対話的で深い学びの実践については十分とはいえないという認識でいる。</p>	<p>・学力調査の結果については、まだ小学校段階であり、今後の成長が期待できる。数値的な目標にこだわりすぎる必要はないと思われる。 学力の向上は大事であるが、様々な施策が教員にとって負担が大きいのではないかと感じる。雑用をしてくれる人を学校に派遣するなどして、教員本来の業務に力を注げるようにしてほしい。教員にゆとりがないと様々な弊害が起こる。それは民間でも同じで、ゆとりがないと事故・ケガが起こる。負担を増やさないようにしてほしい。</p>	<p>校内研究では、これまでと違ったテーマを設定し、他の教科領域の研究を実施する。授業公開をすすめ、さらなる授業改善を図る。</p>	A
	<p>・児童が発表する場を積極的に取り入れていると感じている教員は約8割。また、校内研究のユニバーサルデザインの考えに基づいた授業実践については、効果をあげ、教員も十分な成果が上がったと考えている。児童にとっても学校は自分の居場所となっているという実感につながっている。だれでもが参加できるというユニバーサルデザインに基づいた授業とはなっているが、体験的・問題解決的な授業実践としては十分とは言えない。</p>	<p>教育活動全体を通して子供たち一人一人に丁寧にかかわっていると感じる。授業においても誰でもが参加できるというユニバーサルデザインの考え方は素晴らしい。また染地の教員がその考えを理解し実践していることは高く評価できる。</p>	<p>染地小スタンダードをさらに意識した授業実践を行う。すべての子どもが参加し、活躍できる場の設定を行い、児童の意欲向上を図る。</p>	
健全育成	<p>・あいさつについて、児童アンケートでは80%の肯定的評価を得ている。 自尊感情測定尺度を5月・1月に実施し、児童の変容をみとるなど活用することができた。その結果70%超の学級で児童の自己肯定感の高まりがみられるようになった。具体的な数字で児童の変化がみられるようになり、教員のモチベーションも上がっている。</p>	<p>染地小学校は少人数の中で、児童に対して目配りができている。 児童のアンケートについては、自宅に持ち帰って記入したほうがよいのではないかと感じる。用紙にたくさん記入していると、他の児童に気づかれてしまうために、問題行動について記入できない児童が出てくるのではないかと危惧している。児童の声を上手に吸い上げることでいじめをなくすなどのことができるのではないかと感じる。</p>	<p>自尊感情測定尺度の活用を進める。児童の変容を学年途中でも看取り、自尊感情を高める指導に役立てる。道徳教育を推進し、いじめや生活指導上の課題をさらに少なくする。</p>	A
	<p>・校務分掌を見直し、児童への個に応じた対応を心掛けた。教職員の個別対応に対する意識は高くなり、9割を超える教員が効果を感じている。 児童にとっても学校に対する適応感が高く、肯定的な回答が86%になっている。それ以上に、学校が子供にとって居心地が良いと感じている保護者は89%になっている。合理的配慮委員会・特別支援教育コーディネーターを中心に、児童の個別指導計画などの作成がすすみ個に応じた指導が進んでいる。</p>	<p>教員の対応の良さを感じる。学校を楽しんでいる児童が多くいることは大変喜ばしいことである。 昨年と比べると学校外でのあいさつのよさを感じるようになった。80%の回答でもまだ低く感じる。もっと達成できているのではないかと感じる。</p>	<p>児童の生活を指導するという見方から、児童の生活を支援するという見方へ教員の意識を高め、児童の心情に寄り添った指導をさらに進める。そのために校務組織のさらなる見直しを推進する。</p>	
健康・体づくり	<p>・東京都児童体力・運動能力、生活・運動習慣等調査では、2つの学年が、男女とも東京都の平均を上回っている。また2つの学年が女子は東京都の平均を上回っている。 児童にとっては体力増進の意識は標準的で、進んで運動に取り組んでいるという肯定的な評価は75%にとどまっている。</p>	<p>・体力調査の結果には、学力よりも留意してほしい。スポーツ推進にかかわる存在として、児童の体力増進に何かかわることはできないかと感じている。休み時間だけでなく、クラブ活動の時間に指導員を探すなどの協力をできればと思う。</p>	<p>休み時間の過ごし方を工夫するとともに、体育の授業においても重点的な指導を行い、男子のソフトボール投げや女子の反復横跳びなど染地小学校の課題になっている運動能力の向上を図る。</p>	C
	<p>・オリンピック・パラリンピック教育については、児童からの肯定的な評価は73%にとどまっている。東京都夢未来プロジェクトに参加するなど、ゲストティーチャーの招へいは盛んに行われたが、日常的な取り組みについて課題があったという意見も教員からあがっている。</p>	<p>染地小学校では、ボッチャへの取り組みなど、パラリンピック協議への理解がすすんでいる。ニュースポーツの紹介などを児童のためにすすめていきたい。</p>	<p>地域のスポーツ推進委員や学校のOBなどと協力し、パラリンピックに関する取り組みを推進する。ソフトボールやタグラグビー、ドッジビーなどの調布市の諸団体がかわる大会を活用し児童の運動志向を向上させる。</p>	
保護者・地域との連携	<p>・児童の75%が地域運動会への参加した。また地区健全委員会主催の学校キャンプには50%の参加がみられた。その他高齢者とかかわりなど地域と児童とかかわりは深まっている。81%児童が地域とかかわりについて肯定的な評価をしている。 教員にとって課題としてみられることは地域の人材を授業に活用する場面があまり多くみられなかったということがあげられる。</p>	<p>地域住民の高齢化など地域としての課題もある。地区健全推進委員会ではソフトボールを推進しているが、新しい指導陣が決まり、児童の自主性を育てるような指導が始まった。試合でも良い結果に結びついている。染地小学校で大切にしている自尊感情と共通する部分大きい。これからも地域と学校が協力して児童を育てていきたい。</p>	<p>昨年度染地小学校地区協議会が発足した。地域人材の発掘や学校への協力が依頼できる関係の醸成につとめる。そのために働き方改革の方針を踏まえた上で、施設の提供など実施する。</p>	C
	<p>・保護者の学校への信頼も高く、PTAと教員で合同音楽会を開くなど連携が図られている。個に応じた支援が評価され、特別支援学級には転学の問い合わせも多い。また転学児童も複数おり、高い評価を得ている。</p>	<p>協力的な教員が染地小学校には多いことをPTAとしても感謝している。PTAとして協力できるのはこれからもしていきたい。家庭と学校との連携がとても重要だと感じる。学校選択などで悩んでいる知人や近隣の方には染地をすすめることにしている。</p>	<p>PTAや各種地域団体においては、小規模校・地域であることから過度な負担とならない運営を依頼する。誰でも引き受けられる組織、大人も子どもも楽しめる意義を実感できり運営をキーワードに連携を進める。</p>	
特色ある教育活動	<p>・特別支援学級と通常学級の交流について、通常学級の児童は77%、特別支援学級の児童は89%が肯定的な評価を下している。縦割り班活動や給食交流、休み時間の交流が盛んに行われている。 通常学級での特別な支援を必要とする児童も、インクルーシブ教育の方針のもと個に応じた指導が行われており、教員の児童理解に対する意識も進んでいる。</p>	<p>昨年度は特別支援学級とかかわりが回数として少ないと思われたが、内容としては充実していることがわかった。特別支援学級に在籍している児童にたいする温かい対応が染地の良さにつながっている。</p>	<p>特別支援学級の教員の専門性を生かした教員の研修等を行い、すべての教員がインクルーシブ教育の意味を理解し、実践できる体制づくりをさらに進める。特別支援学級在籍児童の、通常学級への通級や体験を推進し、個に応じた教育をさらに進める。</p>	B
	<p>・縦割り班活動を毎月実施することで異学年交流が進み、86%の児童が、違う学年の友達と仲良くしていると回答している。 縦割り班活動をはじめ、児童会の行事、委員会の行事を6年生をリーダーとして実施し、児童の主体性を高めている。また6年生を手本として行動する児童も増えている。</p>	<p>縦割り班活動についても大変充実していると感じる。86%でもまだ低いと思われる。異学年との仲の良さは、中学校に進学しても、染地小学校の卒業生とわかる特徴になっている。</p>	<p>行事の精選と縦割り班活動のバランスをとり、ゆとりをもって児童が活躍できる場を設定する。ゆとりの中で児童がリーダーシップを発揮できるように特別活動の計画の見直しや校務分掌の適正化を推進する。</p>	